

病院における 社会福祉事業



社会福祉法人 京都社会事業財団
常務理事 野口 雅 滋
(京都桂病院 院長)

今年の4月1日に常務理事に選任されました、京都桂病院 院長の野口です。宜しくお願いたします。

児童福祉や老人福祉の施設で働いている人は、自分が勤務している施設がどのような事業を行うことで社会福祉に貢献しているのかを明確に自覚しておられることと思います。しかし、病院では、自分達がどのような社会福祉事業を行っているのか分かりにくいのが実情です。医療自体は非営利事業ではありますが、それ自身が社会福祉事業という訳ではありません。実は、京都桂病院では無料低額診療（無低）という、第二種社会福祉事業を行うことで社会福祉に貢献しています。法人内の西陣病院でも全く同じです。この無料低額診療という事業は、生活に困っている人が医療を必要とする時に無料または低額な費用で治療を受けることができるようにす

る制度です。生活保護を受けている人は当然ですが、生活保護に該当しない人でも、医療費の支払いが困難という人は無低の対象になります。家庭内暴力から避難している人や、不法滞在外国人など、通常の健康保険を使うことが困難な人も対象になります。

無低の仕事を中心に行っているのが医療ソーシャルワーカー（MSW）です。当院で治療を受ける前であれ後であれ、医療費の支払いに不安のある方はMSWと相談する仕組みが整えられています。京都桂病院でも西陣病院でも多くの優秀なMSWが勤務しています。MSWが一人ひとりの患者さんから丁寧に話を聞き、無低の適応なのかどうかの判断をし、退院後の生活支援の相談にも対応しています。

超高齢社会を迎え、社会的に孤立している高齢者が増えてきています。孤立している人

達でも、急病になれば病院を受診します。老介護の高齢者であれば、介護をしている人が急病で緊急入院が必要になれば、介護を受けている人を一人家に残しておくわけにはいきません。二人とも入院してもらうような状況も起きています。いろいろな形で社会貢献が社会福祉法人立の病院には求められるようになってきています。

法人内の老人福祉施設や児童福祉施設の入居者への医療支援も可能な限り行っています。また隣地で来春開所する「ももの木学園」で精神的治療を担当する児童精神科医師は、当院に勤務しながら入居児童の治療にあたることとなります。色々な形で人的支援も、法人全体として、医療・介護・福祉を適切に提供するためには必要で、それも社会福祉への貢献と考えています。



NEWS
なう!

西陣病院

「ふれあい看護相談」を行ないました

7月25日土曜日に、毎年恒例の「ふれあい看護相談」を開催しました。
外来患者さんをはじめ、付き添いのご家族、またこのイベントのために来て下さった方、計28名の方が参加してくださいました。
3名の認定看護師がみなさまからの相談を受け、お話をさせていただきました。また、退院支援看護師による「介護相談」にも多くの方に来ていただきました。短時間ではありましたが、みなさまとお話するよい機会となりました。

【皮膚・排泄ケア認定看護師 多氣真弓】
皮膚・排泄ケア認定看護師は、スキンケア相談を実施しました。皮膚の乾燥は、様々なスキンケアトラブルの原因となりますので、保湿を行う事は大切なことです。モイスチャーターチェッカーで皮膚の潤い度をチェックした後、保湿剤の紹介や塗り方のオリエンテーションを行ないました。皆さんに、実際に保湿剤を塗布し、皮膚の潤いを実感して頂くことができました。参加された方が、毎日、継続してスキンケアを行なってスキンケアの予防ができれば嬉しいです。また、このイベントを継続し、地域の方々とふれあう時間を今後も大切にしていきたいと思えます。

【感染管理認定看護師 伊藤良子】
感染管理認定看護師は、これからの季節に注意すべき食中毒や昨年流行したデング熱につい

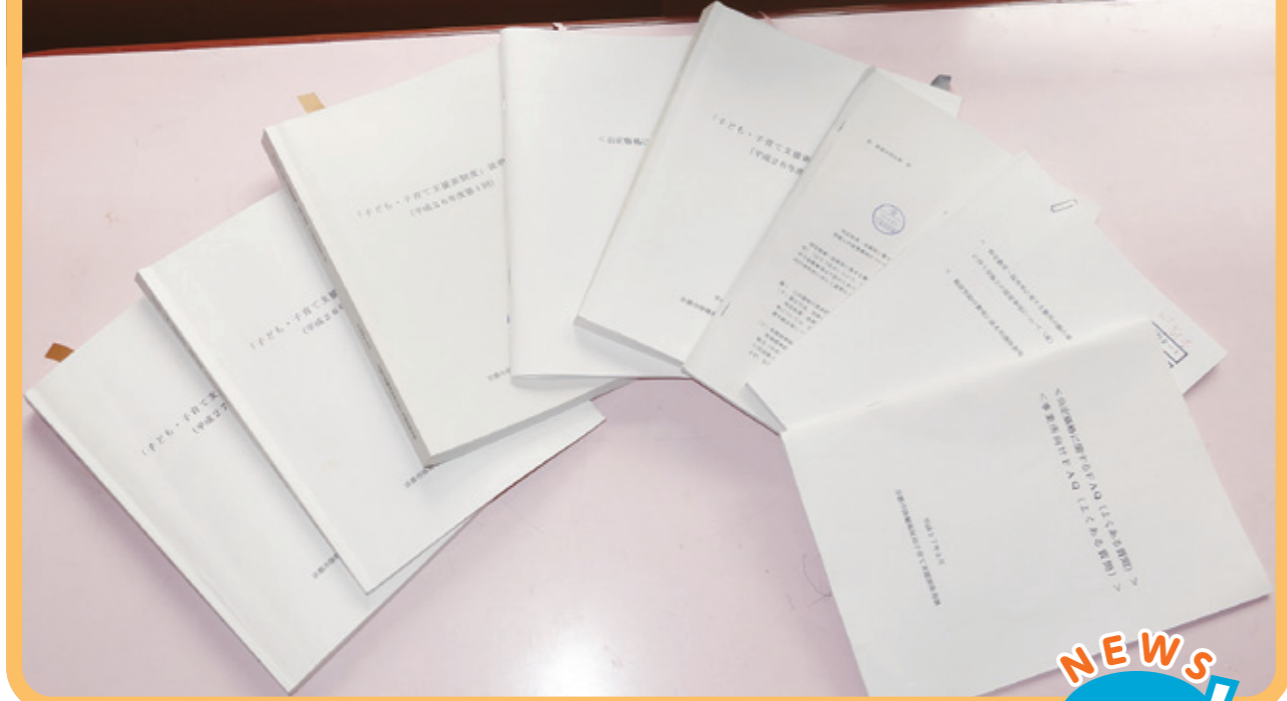
て説明しました。食中毒を起こさないように、買い物したら早めに冷蔵庫に保管する。お肉や魚を切った包丁やまな板は、1回洗ってから使う事。デング熱は、現在国内発生はありませんが、蚊の発生を防ぐために自宅で水溜りをつくらないようにお話ししました。

【糖尿病看護認定看護師 立山一美】
当院で糖尿病の治療を受けておられる方や、興味を持った方などに来て頂き、食事のことや日常で気になる事などの相談を受けました。当院で発行している糖尿病だよりやパンフレットなどをお渡しし、説明させて頂きました。糖尿病は生活スタイルを健康的に変えていき、適正な知識をもてば、予防や発症を遅らせることができます。また、糖尿病合併症も多くを防ぐことができます。このイベントが少しでもお役に立つよう今後も継続していきたいと思えます。



西陣病院

〒602-8319 京都府上京区今出川通七本松上ル
TEL: (075) 461-8800 FAX: (075) 461-5514
http://www.nisijin.net/ E-mail: nisijin@nisijin.net



NEWS
なう!

二条保育園

歴 史 的 変 化

いつもは園児にまつわる様々なエピソードをお伝えして参りましたが、今回は堅苦しい話です。

平成27年4月から、すべての子ども・子育て家庭を対象にした新制度が始まりました。戦後、今まで就学前の子ども達の保育を担ってきた保育園、幼稚園の枠組みを超えた大きな変化です。国が説明している新制度の目的は ①質の高い保育の提供 ②待機児童解消 ③地域における子ども・子育て支援の充実ですが、大きな時代の要請としては少子化対策、女性労働力の確保が有ると思います。

又、永年、保育園と幼稚園の一元化の議論が続いていましたが、今回の新制度はこの幼保一元化の一つの解答だと受け止めています。

保育園、幼稚園（一部の）などの施設の財政の有り方も大きく変わり、保育に係る費用が制度理論上保護者に給付され、その給付を保育園等が受け取る形になりました。（実際は国・京都市が保育園等に給付。）介護制度に似た制度です。

子どもを保育園などに利用申し込みをする場合、まず、市町村から保育が必要と認められる「認定証」の発行を受けなければなりません。この認定証は保育園など新制度下の保育施設を利用できるいわばパスポートのようなものです。認定には1号・2号・3号と有り

ますが今は説明を省きます。

新制度の大きな傘の下には様々な保育の業態が有ります。羅列しますと、**保育園・給付型の幼稚園・認定こども園**（幼稚園と保育園の合わせた施設）・**小規模保育事業・居宅訪問型保育事業・事業所内保育事業・家庭の保育事業**。

又、傘の外には従来の私学助成制度による幼稚園が有ります。実は待機児童解消は幼稚園の動向がポイントで、今後認定こども園に移行する幼稚園のボリュームによっては一気に待機児童の解消になると思われます。

概要をお伝えしましたが、かなり複雑な様相になりました。ただ新制度が親の利便性に傾いているのが気掛かりです。昨年度と比較して保育の長時間化が特に乳児クラスで顕著です。小さい子ども達は少々疲れ気味です。子ども達の豊かな育ちは大げさでなく日本の未来に係る事です。子どもの成長と豊かな家族作りを支える温かい制度となる様、保育園から発信をし続けていきたくと思っています。

（写真は京都市の新制度の説明資料です。それぞれ厚さ1・5cm、難儀な資料でした。）

二条保育園

〒604-8404 京都市中京区聚楽廻東町7
TEL: (075) 841-0139 FAX: (075) 841-6019
<http://www.nijo-hoikuen.sakura.ne.jp/>



NEWS
なう!

京都厚生園

認知症カフェ「だいだいの木」

65歳以上の高齢者のうち認知症の人が全国で462万人と推計され京都市では平成27年で約62,000人、「団塊の世代」が75歳以上になる平成37年には約87,000人になると推計されます。つまり高齢者の3〜4人に1人は認知症あるいは認知症の予備軍であるという数字が出されています。誰もが他人事ではなく自分ごととして考えることが必要になってきました。京都市においても、認知症総合支援対策が平成25年から実施されています。これまでの認知症ケアのように中重度になってからではなく、早いうちから「気づいて」・「繋いで」・「支える」仕組みが重要視されてきました。

このような中、出会いのポイントを前に倒し、初期の認知症や若年性認知症の方が介護保険でのサービス利用に繋がるまでの「空白」の期間を埋める場所として、平成26年4月から、「だいだいの木」をはじめました。開催日は、毎月第3日曜日。対象者は認知症（かも）の人と家族で当事者と家族の居心地の良さを最優先に考えて完全予約制とさせていただいています。建物は古民家を改修したもので、周辺を畑や田んぼに囲まれたのどかな環境です。運営ス

タッフは、当園の職員は勿論、京都桂病院の医師・看護師・西京医師会の医師にもご協力いただいています。ここでは参加者の肩書きや専門職であることはちよつと置いておいて、当事者、家族と専門職が垣根なく出会い、支え合う場。当事者、家族が安心して自分達の思いを吐き出し、気軽に相談する場。辛いのは自分一人ではない事を実感し仲間づくりにつながる場。全ての参加者にとって認知症の理解を深める場となつてきています。

先日7月27日には当園本体デイサービスセンターのホールで実践報告会を実施しました。約50名の関係機関の方が参加してくださいました。

今後も地域の皆さんにカフェの役割や必要性を理解し応援していただけるように、「だいだいの木」の活動の様子を当園のブログ等で発信してまいります。何より認知症の人と家族にとつての居心地の良さを一番に考え、活動の拠点になることを目指します。

今後ご理解ご協力よろしくお願ひします。

京都厚生園

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町46番地
TEL: (075) 392-7870(代) FAX: (075) 392-0191
<http://www.kyotokouseien.com/> E-mail: kswf@kyotokouseien.com

キラリさん 登場!

私の夜勤の楽しみ

にしがも舟山庵
介護職員 加藤杏子さん

夜勤とは心細いものだ。基本は一人での業務であるし、当然ながら暗い。私の趣味は、映画を見たり、本を読んだりする事なのだが、夜勤日の昼にうっかりホラー物でも見てしまうと、びくびくしながら仕事をすはめになってしまう。工作中、ご入居者が音もなく後ろに立っていて、驚いたなんてことはしょっちゅうだ。しかし、何度も経験を重ねていると嬉しい事もある。夜、起きてきたご入居者をトイレに案内したり、ベッドに誘導したりすると、「ありがとう」とにっこり笑ってもらえる時がある。夜勤とは心細さも辛さもあ

るものだが、そんな時ばかりはやはり嬉しくなる。
そんな悲喜こもごもの夜勤であるが、密かな楽しみがある。ブルーアワー、と言う単語をご存じだろうか。日の出直前に訪れる、空がとても濃い青色に染まる時間帯の事である。例えるなら、水族館の特大の水槽の中の様な、少し暗い、透明な青色に、窓から見える景色が沈んでいるのである。夏場は早い時間に、冬場は心持ち遅い時間に、季節によって時間帯が微妙にずれてくるのに、ブルーアワーと呼ばれる時間帯自体は非常に短い。数十分しかない景色を眺める。それが、夜勤の、私のささやかな楽しみの一つである。



ライフ・イン京都の 園芸(縁迎)療法

ライフ・イン京都
園芸療法士 林 麻由美さん

今年は皆さまにも植物にも厳しい夏だったことと思います。私が園芸療法士としてライフ・イン京都に入職し、7年目に入りました。園芸療法は対象の方に植物だけでなく、植物が育つ環境の中において手触りといった五感を刺激し、心身ともによりよい状態になっていただくことです。

人間は、木々からの木漏れ日に心地良さを感じ、一番心が癒されると言います。事実うつむき加減のご入居者に、緑や空を見上げて頂くと、顔が上がり目に力を感じます。

この夏、植物を介して関わる機会が増えたご入居者の発案で、植物好きの方々が集まって植物について話す「植物茶会」という同好会が誕生しました。また、ご入居者と播いた種が実をつけ、それを他の方が絵に描かれ、またその絵を七宝焼きにされたご友人の方がライフ・イン京都にご入居されることになりました。

私が提供した自然界の植物たちは、気付かぬうちに人と人の縁を結んでくれました。

これからもご入居者の喜びや楽しみを見つけ、ライフ・イン京都の理念にもある、「活気ある生活、楽しい生きがい」につながるよう取り組んでいきたいと思っています。



NEWS
なう!

つばさ園

今年の夏のスペシャル行事! 『三線担いで沖縄へ!』

数年前縁あって、沖縄の三線を作っておられる方が、10棹の三線を寄付してくださいました。三線が届いて職員一同びっくり。このお気持ちには応えないと...子どもたちに声をかけ、三線の練習会を始めました。何人かの職員も一緒に練習会をすすめてくれました。すぐに私より上手にひく子どもも出てきました。『3曲ひけるようになったら、沖縄に行つて、三線をくださった方と一緒に三線をひこう』と、子どもたちを励ますつもりで言っていたのですが、本当にひけるようになってきました。
そんな時、一緒に沖縄に行こうと声をかけてくださる方があって、この夏、子ども7人と職員で三線を担いで沖縄へ行つてきました。
海で泳いだり、平和学習もしましたが、子どもたちの一番の目標は三線をひく事。三線を寄付して下さった方と三線居酒屋に行き、飛び入りでお客様の前で演奏。いつもは引っ込み思案な子が、自分から進んで舞台上に上がります。一曲ひかせてもらったのですが、一曲では不満そうなきをなだめて、舞台から降りました。子どもたちがこんなに積極的なのは、なかなか見た事のない光景でした。

最終日には、三線をくださった方のお弟子さんと、このご縁を作ってくださいくださった方も合流して、三線の合流会。という予定だったのですが、台風接近で、急遽早目の飛行機で帰る事になりました。交流会ができず残念でしたが、子どもたちは、三線居酒屋の演奏が嬉しかったのか、『また、来よう。』『次は、もっと三線上手になつてこよう。』『次は、おこずかいを貯めて行こう』と大変前向きな気持ちで帰路に就きました。
子どもたちが三線に夢中になるのは、その優しい音が良いようです。子どもにとって、表現活動は、やってみたいけれど、なかなか自信が持てず、簡単には上手になれず、だれどやってみたい。そこを、一緒になって楽しむ大人がいるという事が子どもにとって大切なのだと思います。表現活動が溢れている、そんな施設でありたいと願っています。
(つばさ園の広報誌に『楽器を求む』と書いたところ、三線を寄付して下さった方がありました。その三線も今回一緒に沖縄に行きました。感謝!)

つばさ園

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町51-28
TEL: (075) 381-3650 FAX: (075) 393-4316
E-mail: tsubasa@rondo.ocn.ne.jp